

構音指導の進め方 [ta]に誤っている[ka]の指導を例に

[k]音素



[ka] →[ka,ka,ka…] →[O,ka]→[O,ka O,ka O,ka…] (例) →3音節で → 繰り返し → 有意味語 → 文 → より多く含む長い文の中で より速く
単音節 単音節の繰り返し →[ka,O]→[ka,O ka,O ka,O…] [O,ka,O] 2音節単語 語頭音単語 2文節文 ↓
後続母音と同じ母音と (a,ka) [O,ka,O] 語尾音単語 3文節文 自由会話の中で
後続母音と異なる母音と (i,ka) 3音節単語 語頭音単語 4文節文
異なる・近い・同じ構音方法
異なる・近い・同じ構音点
これらの組み合わせで出来る子音の後続母音を変えて
異なる・近い・同じ構音方法
異なる・近い・同じ構音点

[ko] 後続母音を変える

[kw]

[ke]

[ki]

関連する他の音へ

指導のターゲット音は一つ

新しい指導音の導入は、指導中の音が少なくとも単語レベルで安定し出してから

各課題の中で子どもにとって易→難へ段階的な指導を

視覚的な助け 有り→無しへ (自発や暗唱より音読のほうが容易)

聴覚的なモデル 有り→無しへ (呼称「これなあに」より復唱「真似してね」)

意識化の工夫 目印等有り→無しへ のほうが容易)

例) 単語の復唱→音読→呼称

マーカーが入った文の音読→マーカーが無い文の音読→復唱→暗唱

スピード ゆっくり→速く

繰り返しや 音・文節・文の数 少ない→多く

指導の方向

波及効果により 指導は次第に容易になる。

効率のよい指導計画を。

安定して正しく出していることを確認しつつ 先に進める。

誤りが生じたら 1段階前に戻って安定を得てから

ステップを進める条件:

誤って產生していた音との出し分けと、

誤って產生していた音とターゲットの音との正誤弁別が確実に出来ること

自己修正が無理なく出来ること